会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回学習評価WG |
| 開催日時 | 令和2年10月7日（水）　14時00分～16時00分 |
| 場所 | 福岡：リファレンス駅東ビル貸会議室 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡　信吾  委　　　員：植上　一希、岡村　慎一、近藤　賢宏、岩﨑　千鶴、  瀧本　知加、田澤　初美、丹田　桂太、佐藤　昭宏  　　　　　　　　　　　　　　　 計 9名  オブザーバー：渡邉　晶帆、内川　穣太　　　　　　　　　　 計 2名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　 計 1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 合計12名 |
| 議題等 | 1. 進捗状況と今日の目的について（植上）   ・第2回学習評価WGでの議論（アンケート調査・アクションリサーチ）  について説明  ・本日の目的の説明   1. アクションリサーチチームからの報告と議論（瀧本）   (1)アクションリサーチ内容（対象者別に整理したもの）の説明  ・調査内容については考える余地があるが、今年度は構造的把握に必要な  情報収集。2021年度にモデルプログラムの立案・検討の基礎的デー  タを得る。  ・今年度のアクションリサーチは、各校最低1回。教務担当者と授業担当  者にするから6回は調査する予定。  ・今回は納得感を持ってもらうためにも実態を把握することに重きを置い  た調査設計にした。  (2) 回答パターン、聞き方の設計について  ・非認知能力を意識している場合としていない場合でアプローチが変わっ  てくるので、それに対応した設計が必要。  ・言語化できない状況を表面化するために、具体的な指導等状態やCan Do  ベースの聞き方が必要。  ・育成の場はカリキュラム以外の学校行事などの可能性が高いので、カリ  キュラム以外の設定を加えたほうが良い。  (3) クラス担任への調査の必要性について  ・クラス運営の中での非認知能力への関与についてのヒアリングも重要。  　クラス担任として何らかの目標を掲げて、レポートの提出期限や時間管  理などを自己管理能力として求めるような無意識の部分を非認知能力と  認識してもらう必要がある。  ・今年度のようにオンラインやデュアル授業の実施で今まで自然にできて  いた育成が出来ない状況、またクオリティを意識している人としていな  い人の差があるので、プログラムをしっかり作成する必要がある。  ・授業担当は熟年・初任、非常勤等の対象の整理が必要。  ・クラス担任をしている場合は、クラス運営項目の調査も含める。  (4) その他の調査の方法、調査項目について  ・非認知能力という言葉を前面に出さずに、「どのような人材」「どのよう  な力」を望むか、またそれに対してどのようにアプローチをとっている  か、といった質問の仕方で進める。  ・事前に委員の3人（近藤・岩﨑・田澤）に各30分のインタビュー実施。   1. アンケート調査チームからの報告と議論（佐藤）   (1)アンケート項目についての説明  ・2期目の事業でありアクションリサーチでどう掘っていくかというとこ  ろを念頭に置いている。  ・アンケートは全専研加盟校に依頼し、教務責任者、非常勤も含めた一般  の教員が調査対象。  (2) 報告に対する補足・質疑  ・No.12…数値的な回答を求める聞き方にしてはどうか。  ・No.7…卒業生の追跡調査は、教員単位もしくは組織として情報収集をし  ているかに分かれるため、そこを想定した文言に変更。  ・No.4…調査対象を考慮すると、学校長、副校長は不要。  ・No.6…「あなたが所属している学科の職場」を「あなたが所属する学校の  職場環境」に変更。   1. スケジュール確認   ・アクションリサーチ個別インタビュー…10月28日(水)14時～  ・11月の第3・4週で第1回アクションリサーチ  ・12月の第1・2週に第2回アクションリサーチ  ・第4回学習評価WG会議…11月10日（水）10時～12時  福岡で対面開催（オンライン併用） |
| 配布資料 | ・2020年度学習評価WG第3回レジュメ  ・アクションリサーチ（案）  ・学習評価研修アンケート項目 |

以上